

不祥事根絶に向けた緊急メッセージ

広島県教育委員会

令和6年5月30日

不祥事根絶に向けた緊急メッセージ

教育は、人の成長を支える崇高な営みであり、人の信頼の上に成り立っています。教育に携わる私たち職員は、子供たちの健やかな成長のため真摯に向き合い、日々の成長のため弛まぬ努力を続けています。真摯に努力を続ける姿勢は、子供たちだけでなく、自分自身を支えてくれる家族にとっても誇らしいことです。

教職員の皆さんが、日々、努力を積み重ねておられることに、心から感謝いたします。

しかし、誠に遺憾ながら、一部の教職員による不祥事が相次いで発生し、教育への信頼が著しく損なわれています。特に、最近発生した事案においては、わいせつ行為など、教職員としてはもとより、社会人としての資質が疑われるものが続発しており、事態は極めて深刻です。これらの行為は、自分自身を理解し支えてくれる家族をも裏切る行為にほかなりません。

今、私たち自身が、自分事として、自分の心情・姿勢を見つめ直すことが必要です。

ちょっとした出来心や瞬間的な衝動に従って、すべてを失うのか。

一呼吸の冷静な判断で、信頼と誇りを持ち続けるのか。

教育に携わる者として、その崇高な使命を自覚して振り返り、職員同士互いに確かめながら、自分を客観視しつつ、責任を果たしていかなければなりません。

県教育委員会としても、教職員によるわいせつ行為等は決してあってはならないとの考えの下、厳しい姿勢で臨むとともに、風通しの良い職場環境づくりを推し進めるなど、不祥事事案の根絶に向けて、尽力してまいります。

「子供たちは、私たちの姿を見て育ちます。」

このことを今一度心に刻み、子供たち、家族、同僚に誇れる自分であり続け、県民の期待に応える教育を、子供たちの学びの充実とともに実現していきましょう。

令和6年5月30日 広島県教育委員会教育長 篠田 智志

不祥事根絶に向けて

(緊急メッセージに込めた思い)

令和6年5月30日

広島県教育委員会

1 全ての教職員に対する緊急メッセージの周知徹底

- 校長は、全教職員に対し、緊急メッセージの周知を図り、危機感の共有と、服務規律の確保を徹底すること

2 教職員としての自覚と責任の再確認

- 教職員一人一人が、その崇高な使命を自覚するとともに、「自らも過ちを犯し得る存在であること」、「不祥事は、どの学校でも、どの職員にも、起こり得ること」を認識し、自分事として、不祥事を起こさないよう努めること
- また、わいせつ行為に繋がりがねない禁止行為(SNSによる児童生徒とのやり取り等)をしないこと、させないこと
- 各学校においては、教職員一人一人が、不祥事を「自分事」として捉えられるよう、効果的な校内研修等の取組を継続的に実施すること

3 風通しの良い職場環境づくり

- 各学校においては、県教育委員会が実施する研修や提供する資料などを参考に、定期的に校内研修を実施するとともに、日常的な教職員間のコミュニケーションを活性化させ、お互いに気軽に相談できる環境を醸成すること

4 不祥事案への厳正な対処

- 県教育委員会は、性的姿態等撮影罪等を「懲戒処分の指針」に明確に規定するとともに、わいせつ行為等に対しては、引き続き、「懲戒処分の指針」等に基づき、厳正に対処していく